

東京都議会自民党ビルメンテナンス議員連盟・東京ビルメンテナンス政治連盟 懇談会

【開催日時】 平成26年3月10日 正午～午後1時15分

【開催場所】 京王プラザホテル

【出席者】

都議会自民党ビルメンテナンス議員連盟

内田茂会長、高島なおき、宇田川聡史、高木けい、鈴木章浩議員

東京ビルメンテナンス政治連盟

佐々木浩二理事長、佐藤博、山田忠彦副理事長、鈴木雅之幹事長、鷲見博史事務局長
一戸隆男相談役（東京ビルメンテナンス協会会長）

【要望説明】

政連事務局長から、協会・政連の東京都に対する要望項目の進捗状況についての説明を行った。

【懇談内容】

テーマ1 指名業者数について

政連側から、指名競争入札における指名業者数が、かつては5社から7社程度であったのが増え、何十社にもなっているが、「談合防止」が目的だとしても、結果的にダンプینگ入札を誘発しているとの指摘があり、議連側から、調査するとの回答があった。

テーマ2 最低制限価格について

議連側から、最低制限価格の設定は必要であるが、入札価格が下がっている現状ではなく、過去の適正価格に戻すことが前提であるとの意見があり、政連側も同意した。なお、政連側から、総合評価制度入札においては、最低制限価格を設けることを要望していることが述べられた。

テーマ3 仕様書について

議連側から、仕様書によって契約金額は算出できるのではないかと質問があり、政連側から、面積・清掃回数等はかなり詳細に仕様書に記載されるようになったが、人数は記載できない（記載すると人材派遣法に抵触する）ので、低額落札の場合、少ない人数で作業をおろそかにしてしまうことになるとの説明があった。

テーマ4 入札時期について

政連側から、入札時期は大分早くなってきているが、継続契約ができない場合、従業員の解雇予告を十分に行えない場合もあるので、更に早くすべきであるとの意見があり、議連側から、理解はできるが、予算成立時期や「人は動かせる」との考えが役所側にあること等の問題があるとの説明があった。

テーマ5 東京都技術職員の大量採用について

議連側から、東京都の平成26年度職員採用試験において、技術職を大幅増の415名採用することとなったので、建築物管理の分野でも是正が図られることになるとの報告があり、政連側から期待の声が上がった。

テーマ6 不適格業者の排除について

議連側から、業界が叩きあって低い落札額にしている現状についての指摘があり、政連側から、品質を維持できない不適格な業者を役所が排除すべきであるとの意見が出された。これに対し、議連側から、行政としては公平性を重視しており、(根拠が不明確のまま)排除することは難しいとの見解が示された。

また、議連側から、履行評価の結果で契約を解除すべきとの意見が出されたが、政連側から、現行の履行評価は職員が評価しているという限界があり、5段階評価で3以上がほとんどとなっており、第三者委員会による評価が必要との意見が出された。

テーマ7 事業実績等の証明資料の提出について

政連側から、現在は電子入札が徹底しており、業者登録の段階で、事業実績、従業員の保険加入状況等の証明資料の提出は一切義務付けられておらず、虚偽の申請もできてしまうので、せめて落札後にきちんと証明資料を提出させるべきであるとの意見があり、議連側も、落札後の証明書類等の提出に賛成した。

テーマ8 協会会員の優先について

政連側から、指名や入札において協会会員を優先することはできないかとの提案があり、議連側から、協会の優れた点をもっと広める必要がある、行政は様々なことを業界団体をお願いしているのだから、加点方式で協会会員を有利にすることは妥当であるとの見解が示された。

テーマ9 複数年契約について

議連側から、複数年契約を拡大した場合、参入の機会が減り、不適格業者の契約が延びることも起きるがそれでよいのかとの質問があり、政連側から、それはやむを得ないとの見解が示された。

テーマ10 外国人労働者の受け入れについて

議連側から、現在、外国人労働者(技術者)の受け入れ期間延長の取り組みを進めているが、ビルメン業界の意向はどうかとの質問があり、政連側から、歓迎するとの見解が述べられた。また、政連相談役(協会会長)から、現在、全国協会として、ベトナムにおけるビルメン協会の設立、ベトナム人労働者の訓練や受け入れについて取り組みを進めているとの報告が付け加えられた。

テーマ11 今後の行政との協議について

議連側から、今後、議連として業界要望を行政側に伝えた結果によって、議員、行政、業界の3者協議の場を設けたいとの提案が行われ、政連側が歓迎する旨を述べた。

以上